

平成 24 年

京田辺市議会定例会
代表質問通告書

京田辺市議会

平成24年
京 田 辺 市 議 会
代 表 質 問 通 告 書 目 次

通告順位	会派	名	ページ
1	日本共産党京田辺市議会議員団	(増富 理津子)	1
2	一新会	(松村 博司)	3
3	新栄会	(喜多 進)	6
4	公明党	(河田 美穂)	9
5	民主議員団	(米澤 修司)	11

順位 1 番 日本共産党京田辺市議会議員団 (増富理津子)

1 政治・経済社会情勢に対する市長の基本認識について

- (1) 市民の暮らしに対する市長の認識を問う。
 - ア 消費税増税について
 - イ 社会保障の削減について
- (2) 原発依存政策をあらため、再生エネルギー政策への転換が必要と考える。原発に対する市長の認識と再稼働に対する見解を問う。
- (3) TPP交渉参加に対する市長の見解を問う。
- (4) 非核平和都市宣言が制定され、「平和市長会議」への加盟もされた。今後、市として取り組むべき平和課題について市長の認識を問う。

2 市政運営の基本方針について

地方分権が進む中、市民の暮らしを守るために地方自治法を踏まえた自治体のあり方、支える職員の資質、向上をどう図っていくのか市長の考えを問う。

3 重点施策について

- (1) くらし・福祉の施策について
 - ア 市民にとって負担の大きい国民健康保険税の引下げを。
 - イ 近隣自治体の中でも高い都市計画税の税率引下げを。
 - ウ 介護保険料及び利用料の負担軽減を。
 - エ 後期高齢者医療制度の廃止の意見表明を。また、府へ老人医療費助成制度の堅持、拡充を求めるべき。
 - オ 府営水の基本水量のうち「カラ水」を抜本的に見直し、水道料金の引下げを。
- (2) 子育て支援について

(日本共産党京田辺市議会議員団)

ア 子どもの医療費助成を、通院も中学校卒業まで無料にするよう拡充を。

イ 子どもの虐待が増える中、南部にも子育て支援センターの増設を。

(3) 教育について

ア 少人数学級の積極的導入を。

イ 市内のすべての幼稚園、小学校へ早急にクーラーの設置を求める。

ウ 小学校給食の民間委託の中止を。

エ 中学校給食の早期実施を。

(4) 地域経済活性化に向けた施策について

ア 住宅リフォーム助成制度の復活を。

イ 公契約条例の制定を。

ウ 地産地消を進め、荒廃農地の活用と農業支援の一層の充実を。

(5) 安心・安全なまちづくりについて

ア 公共バス路線再編後の検証と改善を。

イ 災害に強いまちづくりへ地域防災計画の見直しと早急な整備を。

ウ 南部地域への都市基盤整備と一体となった公共公益施設の整備を。

順位2番 一 新 会

(松村博司)

1 施政方針に基づく予算編成及び主要施策の視点について

- (1) 平成24年度一般会計当初予算策定に当たっては、5つのチャレンジプランを掲げ戦略的また継続的に展開するため、予算編成に込める決意について問う。
- (2) 行財政改革を推進しつつも、経常収支比率も厳しい状況が続く中、健全な市政運営を進めるには自主財源の確保が必要と考える。思い切った発想による市長の政治手腕を伺う。
- (3) 大震災を教訓に「災害に強いまちづくり」を目指し、防災対策関連の拡充や原発災害も想定し地域防災計画の見直しによる各施策の推進と取組み状況を問う。
- (4) 経費の節減、事務事業の効率化を図る中で、市民へのサービスの質的向上を図るには、一層の職員の資質能力向上と意識改革が必要であると考える。人材育成も含めた取組み方策について問う。

2 学校施設の改善と教育環境の整備計画について

- (1) 小中学校の耐震化大規模改修事業の促進及び、学校施設に避難所機能を持たせた改善計画の必要性について問う。
- (2) 南部地域の開発により児童数が増加し、保育所や学校校舎の増築が必要な状況である。三山木地域及び普賢寺地域との連携による校区割りも考える必要について、市の考えは。
- (3) 放射能による食の安全・安心な暮らしの創造について、給食の食材に放射線量測定を市独自で検査を実施されるが、放射能検査事業実施の対応策について伺う。
- (4) 子どもたちが安全で快適に学べる教育環境の整備の取組みと、市民が文化活動や生涯スポーツ活動に親しむ環境の整備について、具体的に取り組まれる方策は。

(一新会)

- (5) 地域ぐるみで子どもを見守り育てる「放課後子どもプラン」や「子ども居場所づくり」などを、事業の担い手組織のネットワーク化をどのように事業展開されるのか問う。

3 都市基盤整備と新産業による雇用の創出、企業立地施策の取組みについて

- (1) 地域経済を活性化させる新産業の創出や新たな企業立地などによる雇用の創出に力点を置かれているが、新たに企業誘致する企業に対する優遇策は。
- (2) 大住工業専用地域拡大推進事業が組合施行で取り組まれている。早期の設立に向けた市としての地元推進組織に対する積極的支援策と、農業基盤整備（ほ場整備）及び治水問題解決について問う。
- (3) 新名神高速道路の整備により移転となる既存企業の他市への流出は避けなければならない。大住工業専用地域の拡大事業の早期実現と企業移転の支援体制について問う。
- (4) 都市計画道路の新田辺駅から田辺高校までの間を北側に歩道を設置の方向で設計に取り組まれている。道路拡幅の効率化を図るために電柱電線の地中化を行うことでバリアフリー化を図る考えは。

4 子育て支援策の拡充と高齢者福祉問題について

- (1) 安心して子どもを生み育てられるための子育て支援体制の構築とは。
- (2) 高齢者や障がい者が住み慣れた地域で生活できるよう、地域社会で支える仕組みづくりの方策について問う。

5 省エネの取組み促進と環境問題について

- (1) 良好な住環境の実現には循環型社会の構築が必要である「京田辺市地球温暖化対策推進計画」を策定し、市民や事業者及び関係団体との連

(一新会)

携強化を図り、温室効果ガスの排出抑制に取り組むとあるが具体策は。

(2) 省エネルギーへの取組みを促進し、新エネルギーの普及に努める中で、事業者や府が推進しているエコタウンプロジェクトが同志社山手地区で取り組まれている。次世代エネルギー社会システム実証モデルが国・府・都市再生機構が取り組まれており、地域全体でエネルギーの有効活用を図るために、市としてどのように連携されるのか問う。

順位3番 新 宗 会

(喜多進)

1 安全・安心な暮らしの創造について

- (1) 地域防災計画について、市民参加型の防災訓練を実施する計画をされているが、実際にどのような方法で実施され、検証しようとされているのか問う。
- (2) 地震被害を最小限に食い止める木造住宅耐震化促進事業、ライフラインとなる水道施設の耐震化事業、市営住宅耐震化事業の実施等の災害対策の取組みについて問う。
- (3) バリアフリー基本構想に基づき、歩道等のバリアフリー状況調査事業について、高齢者や障がい者だけでなく誰もが安心して歩けるまちづくりにとって非常に大切な事業である。重点整備地区（田辺地区）において、生活関連経路の整備促進とあるが、どのような整備をされるのか問う。

2 つながりによる地域力の創造について

- (1) 子育て支援について、子どもを生み育てやすいまちをつくるため近年急激に人口が増加している市南部地域において、保育需要の高まりが見られることから、保育所整備に取り組むとあるが、その取組みについて問う。
- (2) 高齢者福祉について、高齢者の疾病予防を図るため、現在、人間ドックやインフルエンザワクチン接種への助成を実施されているが、高齢者の健康づくり支援を図るため、新たに肺炎球菌ワクチン接種費の助成の実施を計画されているが、その取組みについて問う。

3 地域の輝きと活力の創造について

- (1) 地域経済を活性化させ、新産業の創出や新たな企業立地などによる雇

(新栄会)

用の創出とあるが、大住工業団地の大日本印刷及び幸楽苑の地元雇用の状況について問う。

- (2) 本誌の観光名所のシンボルの一つである「酬恩庵一休寺」について、一休とんちロード整備事業を計画されているが、地元薪区でも一休寺や薪神社、甘南備山への簡易な案内板が設置されているが、今回の一休とんちロードの整備とあわせ、京田辺市のシンボルである甘南備山までの案内板についても追加して整備をすべきと考えるが、市の考えを問う。

4 しあわせを実感できる社会の創造について

- (1) 市南部地域では三山木特定土地区画整理事業が平成27年度の完了に向けて事業を進められているが、一日も早い事業完了と駅前機能の整備が求められている。同志社山手地区と南部の拠点である三山木駅を結ぶ南田辺三山木駅前線の供用開始の進捗状況について問う。

- (2) 本市のシンボルである豊かな緑が残る甘南備山においてナラ枯が非常に多く見られる。平成23年度に約30本の枯木の処理をされているが、甘南備山全体では約100本の立枯れが目立つ状況となっている。保存会でも利用者の安全確保のため、道路沿いの枯木伐採等を行われているが、さらに積極的に対策を講じる必要がある。市の考えは。

あわせて、手原川から甘南備山に至る遊歩道整備も積極的に推進をしてもらいたいが、市の考えを問う。

5 京田辺の未来をささえる人づくり

- (1) 学校の耐震化事業は昨年の震災の経験を踏まえ、早期に完成することが求められている。その取組みについて問う。
- (2) 本市の地域構成は、北部・中部・南部と3地域に分けられている。生涯学習の基点は住民センターであると考える。北部住民センター、中部住民センターの利用状況について問う。また、南部の拠点づくりの検討

(新栄会)

について問う。

順位4番 公明党

(河田美穂)

1 防災対策について

- (1) 東日本大震災から1年が経過しようとしているが、被災地のために派遣した職員の経験や意見を地域防災計画の見直しにどのように取り入れていくのか、市長の考えは。
- (2) 遠方の自治体との「大規模災害時相互応援協定」の締結に向け、現状の進捗状況について、市長に問う。
- (3) 地域防災計画の見直しには女性の視点が重要となると考えるが、市長の認識を問う。

2 市民の市政への参画について

- (1) 「市長茶っとサロン」とは具体的にどのようにするのか。市長の考えは。
- (2) 市民の声を取り入れるために「e京たなべモニター制度」をどのように活用するのかを問う。
- (3) 区・自治会を対象に「男女共同参画実践モデル地区チャレンジ事業」を新規事業であげているが、男女共同参画への取組みについて、市長の認識を問う。

3 地域経済の活性化について

- (1) 「一休とんちロード」は近鉄新田辺駅からJR京田辺駅の間もすべき。
- (2) 一休ブランドを活用した土産物やスイーツの開発は今後どのように進めていくのか。市長の考えは。
- (3) 京都府がゆずり受ける南田辺西地区の土地に対して、本市南部地域発展のため、その土地利用について、具体的にどのように京都府に働きかけていくのか。

4 教育施策について

- (1) 子どもの心身の安全のため空調設備を小学校、幼稚園にも早急に設置すべき。
- (2) 小学校の洋式トイレの設置やトイレ清掃業務委託を早急にすべき。
- (3) 教育の機会均等が損なわれないように「就学援助制度」をどのように拡充していくのか。市長の考えは。

5 主要施策について

- (1) 市独自に放射能検査事業（学校給食等）が実施されるが、これからどのように給食の安全と児童の健康を守っていこうとしているのか。市長の考えは。
- (2) 地域包括ケアシステムの構築に向けた課題や問題点について、市長の考えは。
- (3) 健康施策について
 - ア 高齢者の肺炎球菌ワクチン接種費の助成対象年齢を引き下げるべき。
 - イ 子ども、高齢者のワクチン事業が継続できるように国・府に強く働きかけるべき。市長の考えは。

順位 5 番 民主党議員団

(米澤修司)

1 防災対策の推進について

- (1) 大規模災害応援協定について具体的な取組みを問う。
- (2) 災害時の帰宅困難者対策について問う。
- (3) 市職員を積極的に被災地へ派遣することについて問う。
- (4) 放射能汚染対策について問う。
- (5) 安心まちづくり室・危機管理監の役割と関係部局のあり方について問う。

2 高齢社会の対応について

地域ケアシステムの構築について市の考えを問う。

3 子育て支援について

- (1) 保育所（園）入所希望者が増加している。幼・保の壁を越えた市としての施策が急がれるが、市の考えを問う。
- (2) 三山木保育所・三山木幼稚園の整備について市の考えを問う。

4 地域の輝きと活力の創造について

- (1) 南田辺西地区の日本生命が京都府に寄付するとした土地の利用方法について、市としての考え方を問う。
- (2) 山手幹線や高速道路（第二京阪、新名神）を活用した公共交通の整備について市の考えを問う。

5 脱原発依存の取組みについて

原子力に依存しない電力供給体制の確立にむけた市の具体的な取組みを

(民主党議員団)

問う。